

ナガフトヒゲナガゾウムシについて

佐藤邦夫

筆者は、西脇市大野の自宅灯火に飛来したナガフトヒゲナガゾウムシ *Xylinada striatifrons* を報告した（佐藤，1988）が，その後，多くの本種を採集することができたので，生態面と併せて報告する。

採集記録（すべて筆者採集）

兵庫県西脇市大野

1987-VII-17（1♂），

1988-VI-18（1♀），

1992-VII-27（1♀）

すべて灯火に飛来

兵庫県西脇市中畑町西山

1989-VII-15（2♀♀），

1989-VII-16（8♂♂10♀♀），

1989-VII-23（4♂♂5♀♀）

コナラ伐採木

兵庫県西脇市合山町谷山

1991-VII-13（7♂♂5♀♀），1991-VII-15（3♀♀），

1991-VII-24（3♂♂5♀♀），1992-VI-15（1♂3♀♀），

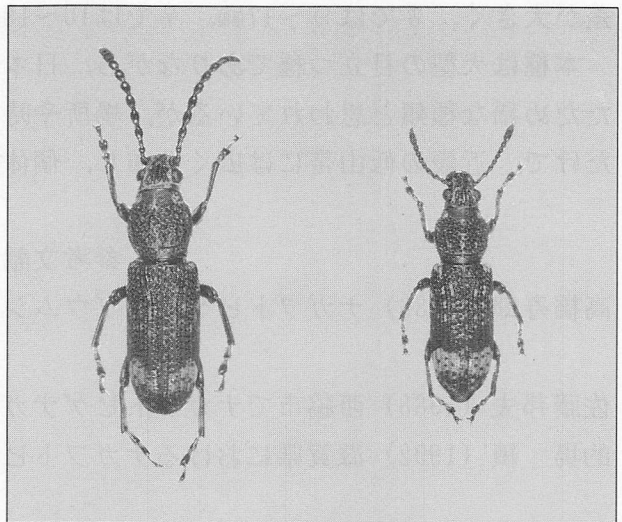
1992-VI-22（1♀）

コナラ伐採木，ヤマザクラ立枯，灯火

兵庫県神崎郡大河内町川上藤ヶ成

1992-VII-22（1♂）

コナラ伐採木



左）中畑町産 右）合山町産

西脇市中畑町と合山町での観察では，昼間はホストと思われるコナラの伐採木

に静止しているのが稀に見られる程度だが、夕方には風通しのよい直径10~20cmほどのコナラ伐採木の下面でさかんに活動を始め、夜間になると上面に出てくる。灯火にもよく集まるようで、電池式のブラックライト(6W)や懐中電灯に飛んできたこともある。採集には夜間の伐採木の見回りが有効であるが、大柄な体に似合わず非常に敏感で、雑に近づくとすぐに落下してしまう。ヤマザクラの立ち枯れで1頭採集しているが、ほとんどは横になったコナラの新しい伐採木で採集しており、同時に得られるシロヒゲナガゾウムシ *Platystomos sellatus* が立ち枯れや立った状態の伐採木に多く見られるのと対照的である。また、体長は個体差が大きく、♂では9~17mm、♀では10~18mmであった。

本種は大型の目立つ種でありながら、日本からの記録は最近になって発表されたため稀な種類と思われるが、場所や時間が甲虫愛好家の盲点になっていただけで、近畿の低山帯には広く分布し、個体数も少なくないようである。

参考文献

高橋寿郎(1986)ナガフトヒゲナガゾウムシを美濃郡吉川町にて採集,

IRATSUME10:46-47.

佐藤邦夫(1988)西脇市でナガフトヒゲナガゾウムシを採集, IRATSUME12:84-85.

的場 績(1992)滋賀県におけるナガフトヒゲナガゾウムシの記録,

月刊むし253:39.